東京リサーチパーク研究所見学会

協和キリンの創薬技術の開発経緯と、それを支える当社の研究哲学

2026年9月10日

取締役副社長, Chief Scientific Officer (CSciO) 山下武美

Global Research Head, 研究本部長　島田孝志

協和キリンの特徴

領域×モダリティーの双方にエキスパティーズをもつユニークなJ-GSPとして、グローバルに事業を展開

グループ体制

5,161
従業員数

実績

50カ国以上
医薬を提供
している国数

財務指標 (2025年)

4,968億円
売上収益

74%
海外売上比率

22.1%
コア営業利益率

7.7%
ROE

株主還元

4%以上
DOE

累進配当

疾患領域×モダリティーの双方で強い知見/経験を保有

- 骨/ミネラル
- 血液/血液がん
- 希少疾患
- 戦略的提携アセット/その他

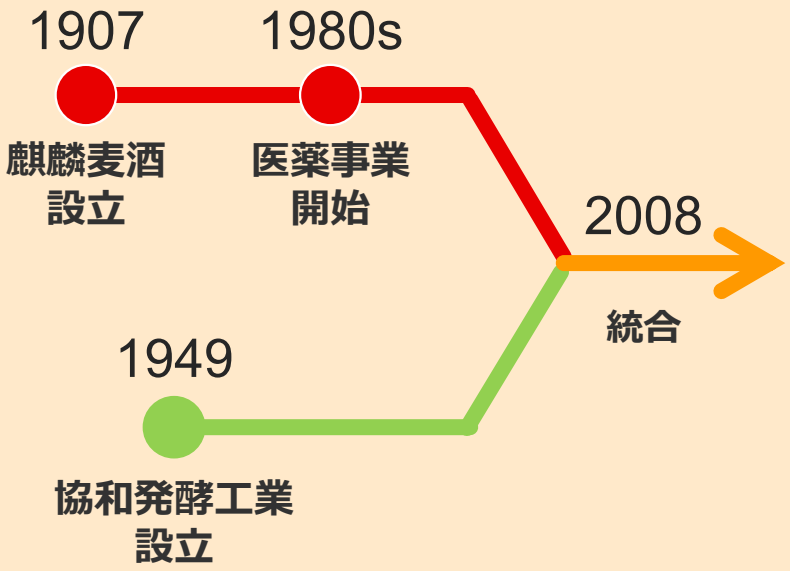
＋

抗体医薬
- 先進的抗体技術
- ADC

遺伝子細胞治療
- Engineered HSC-GT
- AIやデータサイエンスの活用

会社の成り立ち

抗体医薬技術を中心とするバイオテクノロジーに強みを持つ2社は、創薬力を強化するために統合



© Kyowa Kirin Co., Ltd.

Our History（沿革）

革新的な医薬品の創出

協和キリンの発足以前から
積み上げてきた抗体技術の進化、
創薬力を活かし、革新的な医薬品の
創出に挑戦し、病気と向き合う人々に
笑顔をもたらすLife-changingな
価値創出に取り組んでいます。

2012年
ポテリジオ発売（日本）
ポテリジオ®
POTELLIGENT技術を応用した世界初の抗体医薬として発売

2013年
ノウリアスト発売（日本）
ノウリアスト®
“Non-dopaminergic”なパーキンソン病治療薬として研究開発・発売

2018年
ファセンラ発売（欧米日）
Fasenra
ファセンラは当社が創製し、AstraZeneca社に開発・販売権を導出した抗体医薬品

2018年
Crysvita発売（欧米）
CRYSVITA burosumab
X染色体連鎖性低リン血症性くる病（XLH）は、発症頻度が2万人に1人といわれる希少疾患。十分な治療法のなかったXLHの治療薬として発売

2021年
Amgen社とKHK4083/AMG 451の共同開発・販売に関する契約を締結

2024年
造血幹細胞遺伝子治療のリーディングプロバイダーであるOrchard社の買収を完了

2024年
Kura Oncology社とのグローバルにおける急性白血病を対象としたziftomenibの開発と販売についての戦略的提携に関する契約を締結

製品の価値最大化 医薬へのアクセス向上

創出した医薬品を、グローバルに
幅広く患者さんの元へお届けできるよう、
流通基盤の獲得、上市国の拡大に取り組んでいます。

2011年
英国ProStrakan社を子会社化

2014年
英国Archimedes社を子会社化

2018年
Poteligeo発売（米国）

2019年
クリースビータ発売（日本）

2019年
Nourianz発売（米国）

2020年
Poteligeo発売（欧州）

2023年
発売から5年間のUltragenyx社が主導するコラボレーション期間を経てCommercial活動を引き継ぎ、Crysvitaの北米自社販売を開始

2023年
Grünenthal社とエスタブリッシュト医薬品ビジネスを合弁化。CrysvitaとPoteligeoへ経営資源を集中

2024年末
Crysvita
（世界52カ国/地域で販売）
Poteligeo
（世界60カ国/地域で販売）

2024年
Lenmeldy承認（米国）

2024年
アジアパシフィック事業を再編。エスタブリッシュト医薬品事業ならびに一部地域のグローバル製品（CrysvitaとPoteligeo）についてWinHealth社とDKSH社とライセンス契約を締結

製品の品質保証と安定供給

確かな品質の医薬品を、安定して生産し、
供給できるよう、生産技術の進化や
生産能力の拡大に取り組んでいます。

2010年
バイオ生産技術研究所に国内有数の抗体原薬製造設備を竣工

2016年
高崎工場内にバイオ医薬原薬製造棟が竣工し生産能力が増大

2018年
国内生産拠点の再編完了

2019年
2025年に向けたGlobal QA Road Mapの策定とそれに基づく体制の強化開始

2022年
グローバル品質マネジメントシステム（eQMS）の導入完了

2022年
高崎工場において新たな品質保証関連複合施設Q-TOWERを竣工

2024年
米国ノースカロライナにおける新バイオ医薬品工場の建設を開始

2025年
高崎工場において新バイオ医薬原薬製造棟HB7棟を竣工

経営基盤の強化

日本発のグローバル・スペシャリティファーマを目指す当社は、ポートフォリオの選択と集中やマネジメント体制の進化を通じて、有形無形の経営資源の価値最大化に取り組んでいます。

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

2012年
富士フイルム（株）との合弁会社「協和キリン富士フイルムバイオロジクス」の発足

2019年
協和発酵バイオ（株）をキリンホールディングス（株）に譲渡

2019年
One Kyowa Kirin体制の始動
グローバル戦略品の成長が進む中、日本・EMEA・北米・APACの「地域」軸と、地域を超えた「機能」軸を組み合わせた、マトリックスマネジメント体制を開始。両軸による密な連携と牽制により、業務効率化とガバナンス強化が可能になりました。

2021年
One Kyowa Kirin体制の進化
より患者さんを意識した活動を強化すべく、「地域」「機能」に加えて「製品」軸を追加。
グローバル戦略品のさらなる価値最大化を目指します。

2025年
CxO体制の拡充
経営をグローバルレベルでより一層強固なものとすべく、新たにCOOを設置し、CEO・COOの二人体制を取ることで新たなステージに踏み出し、さらなる飛躍を目指します。また、DX推進活動を加速するリード役としてCDXOを設置しました。

Life-changingな価値を創出するための戦略 - Story for Vision 2030

大きな環境変化がある中、ビジョン実現をより確かなものにすべく、Story for Vision 2030を策定
ビジョンの解像度を上げながら、戦略と課題をより有機的に結び付け、Life-changingな価値の創出に向けたCSV経営を実践していく

疾患サイエンス
注力する疾患領域: 骨・ミネラル、血液がん・難治性血液疾患、希少疾患
- 疾患のUMNおよび原因やメカニズムを深耕
- 治療実現に向けた分子・細胞制御機構の追求

創薬テクノロジー
革新的モダリティの強化:
先進的抗体技術、造血幹細胞遺伝子治療
- 治療実現に最適なモダリティの応用
- AIやデータサイエンスによる創薬手法の進化

外部との連携
- オープンイノベーション
- パートナリング

Life-changingな価値の創出

- **自社で注力する疾患領域のアセット** → **自社での価値提供**: 自社の強みを最大限活かし開発された製品を、グローバルで展開する
- **自社で注力する疾患領域のアセット** → **共同での価値提供**: 自社とパートナーの強みとの掛け合わせによる価値最大化を目指す
- **戦略的パートナリングアセット*** → **完全導出**: 最適なパートナーへの導出により、開発品の価値を最大化し、患者さんにより早くお届けする

*** 注力する疾患領域以外のアセットを戦略的パートナリングアセットとし、パートナーとの連携で価値最大化を実現する**

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

協和キリン独自の創薬研究を追求するためのR&D組織体制

- 当社独自の創薬研究を追求し、研究の自由度や機能性を向上させるため、R&D組織を研究本部と開発本部に分割し、2026年3月からそれぞれにCxOを設置

山下 武美

Chief Scientific Officer (CSciO)

研究担当

鳥居 義史

Chief Medical Officer (CMO)

メディカルアフェアーズ、ファーマコビジランス、開発担当

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

5

協和キリン独自の創薬研究を追求するための研究本部体制

■ 研究本部はGRO（Global Research Organization）を組織し、
グローバルに研究力を連携、結集することでLife-changingな価値を創出する

GRO ｜ Global Research Organization

グローバル研究組織として始動

2025年1月、日本・米国・英国の創薬エンジンを連携するグローバル研究組織 GRO へ移行

Story for Vision 2030 を支える4本柱の一つ

フラットで機動的な体制

各領域の専門家である

Principal Investigatorが研究チームを主導するフラットな組織

疾患領域ごとにアジャイルな研究を推進

新たな機能と意思決定の仕組み

Therapeutic Area Heads（TAHs）を設置

Gene & Cell Therapy Group、Laboratory Management Group を新設

GDO（Global Development Organization）とのシームレスな連携

非臨床以降を担う GDO と一体で推進

多様性・スピード・品質を重視し、研究から開発への移行を加速

さらに 2026年5月、TRP（東京リサーチパーク）と FRP（富士リサーチパーク）を統合する新研究拠点構想を公表
― 創薬・トランスレーショナルリサーチ・CMC・開発研究が有機的につながった研究開発モデルの確立を目指す

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

6

グローバルに連携可能な研究組織体制を確立

Global Research Organization since 2025

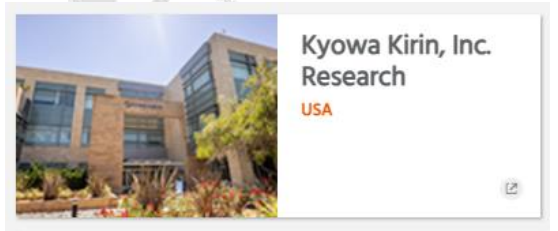
Collaboration

Budget control
Collaboration

Orchard therapeutics

KYOWA KIRIN
KKNA (La Jolla)

KYOWA KIRIN
HQ (東京都大手町)
TRP (東京都町田市)
FRP (静岡県駿東郡)



© Kyowa Kirin Co., Ltd.

7

Life-changingな創薬の種を生み出し、効果的に臨床フェーズに進める創薬フロー

探索研究フローと各種創薬研究組織のミッションの概要

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

8

協和キリンならではのサイエンスドリブン創薬カルチャー

ボトムアップ × トップダウンのバランスドマネジメント

トップダウン
ポートフォリオ戦略

現場の提案と
全社戦略を双方向に最適化

ボトムアップ
研究員による提案型

PI制度による疾患サイエンス深堀 × 新規モダリティ

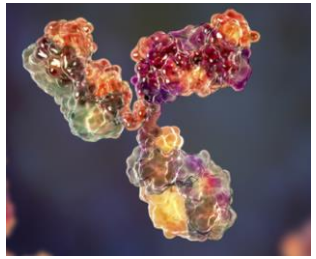
Focused disease area

Rare Diseases（Bone・血液 等）

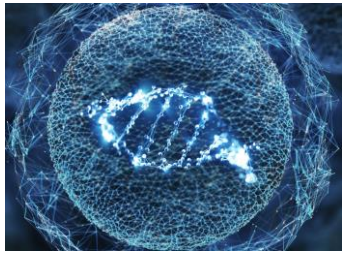
Beyond（future focused area）

Modality

Combined modalities



Advanced-Antibody



Gene and Cell therapy

ベンチャーの大胆さ × 中堅ファーマの総合創薬力

ベンチャー的な大胆さと
アジャイルなイノベーション力

×

中堅ファーマとしての
総合的な創薬プロセス力

© Kyowa Kirin Co., Ltd.
9

サイト統合による創薬プロセスの効率性向上

初期創薬からCMC開発まで一気通貫プロセスを具現化

探索研究チーム
TR*チーム
CMCチーム

YBP（横浜）研究棟に集結
3チームの物理的統合により
連携ロス・受け渡し時間を最小化

初期創薬 → リード最適化 → TR・非臨床 → CMC開発

ワンサイト化により開発スピードと成功確率を向上

*Translational Research

創薬戦略に最適化したラボ設計

説明会ではYBP新ラボ棟Iのイメージ図（当社が入居予定のラボ棟IIの隣の建物）を使用しましたが、権利関係上の理由により、本資料では削除しています。

- チーム間の協働を促す実験・交流空間
- 新モダリティ／研究DXに対応する可変性の高い設計

© Kyowa Kirin Co., Ltd.
10

抗体医薬の進化に特化した研究DX

Dry × Wet × Data をつなぎ、取得・最適化・評価を連続的に高度化

01 DISCOVER
抗体取得能力向上

- 免疫・Display・De novoを補完的に活用
- 構造・配列・社内外データから候補を創出
- 高難度標的・狙ったエピトープへの選択肢を拡張

より速く、より多様なBinderへ

02 OPTIMIZE
抗体最適化能力向上

- AI・計算科学で探索空間を絞り込み
- 親和性・選択性・機能・物性を多目的最適化
- Dry/Wet反復で改変方針を継続学習

手戻りを抑え、薬として仕上げる

03 EVALUATE
抗体評価能力向上

- 多検体調製・ハイスループット評価を強化
- 活性・物性・生産性を探索早期から多面的に評価
- 高品質データを蓄積し、設計・AIへ還流

早期に見極め、成功確率を高める

© Kyowa Kirin Co., Ltd.
11

協和キリンは、独自の疾患サイエンスと創薬技術を基盤として、柔軟な発想と粘り強い価値創出への追求によりLife-changingな価値を創出してきた

当社の創薬研究から読み取れる研究哲学

Crysvita の例

- キリンビールがエリスロポエチン研究を通じて腎に対するサイエンスを深めた
- EPOやレグパラにつながる研究から、腎領域の疾患サイエンスを骨・ミネラル代謝へ拡張
- 腫瘍性骨軟化症の原因となる未知のリン調節因子を探索し、FGF23を同定
- FGF23による高リン血症治療の試みから発想を転換し、抗FGF23抗体burosumabを創製

自社に蓄積したサイエンスを基盤として**未知の因子を自ら見出し**、
独自の抗体技術と結び付けて**新たな価値創出**につなげた

Poteligeo の例

- アレルギー疾患の治療を目指し、東京大学との共同研究から抗CCR4抗体を取得
- CCR4が難治性血液がんATLの約90%に発現することを見いだし、ATL治療薬へ研究の方向性を転換
- 抗体の作用を高める独自のPOTELLIGENT技術を搭載した世界初の抗体として、まず日本で実用化
- ATLで確立したCCR4標的化をCTCLへ展開し、米国・欧州での承認・発売を通じてグローバルな患者価値へ拡大

当初の仮説に固執せず、疾患サイエンスから得られた**予想外の発見を捉え、自社の技術**

基盤を組み合わせて、治療選択肢の限られていた**難治性疾患への価値に変換**した

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

12

本日のご紹介内容

当社独自の抗体技術の開発経緯を通じて、協和キリンの創薬研究哲学をご紹介します

POTELLIGENT

抗体のADCC*活性を高める独自技術

同技術の開発経緯から読み取れる、協和キリンの創薬研究哲学

東京リサーチパーク長　丹羽倫平

REGULGENT

当社独自のバイスペシフィック抗体創製技術

研究員に今なお息づく協和キリンの創薬研究哲学から生まれた、一味違うバイスペシフィック抗体技術

創薬基盤研究所　宮城光

*Antibody-Dependent Cellular Cytotoxicity 抗体依存性細胞傷害

© Kyowa Kirin Co., Ltd.

13

たった一度の、いのちと歩く。